

新卒訪問看護師として働いて



公益社団法人 徳島県看護協会
訪問看護ステーション徳島

訪問看護師を目指したきっかけ

看護学生の頃、実際に働く訪問看護師さんの講演を聞いた。
在宅看護に興味を持った！・・・が

新卒で訪問看護なんてできるのか？
どのようなことをするのか？

たくさん不安があった。



私が訪問看護師を目指したのは看護学生の頃、
新卒の訪問看護師の方の講演を聞いたのがきっかけでした。

卒業後は病院に就職すると当たり前と思っていた私は、在宅看護や、
イキイキと働いている先輩看護師の話にとっても興味を持ち、自分のしたい
看護であると感じました。

しかし、新卒で訪問看護なんてできるのか？
実際に利用者さんの自宅でどんなことをするのか？など
わからないことだらけで、たくさんの不安がありました。

訪問看護師を目指したきっかけ

インターンシップに参加。

利用者に丁寧に向き合いケアする姿にとっても魅力を感じた。



新卒で、
訪問看護の道に進むことを決めた。

そんなとき先生の勧めもあり、今の就職先であるステーションのインターンシップに参加し、実際に看護師と同行して利用者のケアを見学することができました。今でもはっきりと覚えているほど、利用者と丁寧に向き合う看護師の姿、その人らしい在宅生活をささえている看護にとっても魅力を感じました。

一時は諦めかけていたのですが、やはり他の病院で知識や経験を積むのではなく、訪問看護の現場で実際に看護を学び、経験を積んでいきたいという気持ちが強くなりました。そして、卒業後訪問看護の道に進むことを決めました。

訪問看護師になって

看護学校を卒業後

徳島県看護協会 訪問看護ステーション徳島に入職



私は看護学校を卒業後、徳島県看護協会訪問看護ステーション徳島に入職しました。

今は様々な利用者を1日に4～5件、単独で訪問しています。
訪問先では血糖測定やインスリン注射、点滴や褥瘡処置などの医療処置、
入浴や更衣など保清のケア、輸液ポンプや人工呼吸器など医療機器の管理なども行っています。

2年間の過程

◆ シミュレーターでの 看護技術の確認や演習



◆ 研修への参加

- ・ 医療安全
- ・ フィジカルアセスメント
- ・ 緊急時対応
- ・ 看取りについて 等

◆ 毎日の記録

◆ 振り返り会議や交流会



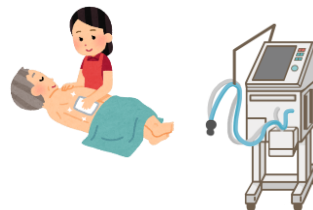
入職してから 様々な利用者へ単独訪問できるまでは
シミュレーターや研修での知識や技術の習得、
段階別での同行訪問、会議での振り返りなどを行ってきました。

シミュレーターを使用しての看護技術の確認や演習では
陰部洗浄やおむつ交換、清拭など保清ケアだけでなく吸引や浣腸、ストマ交
換や点滴なども繰り返し練習しました。
様々な新人研修にも参加し、事例をもとに利用者の状態をアセスメントした
り、実技で実際のケアを確認する経験ができたりと
日々の業務と結び付き、より理解を深めることができました。

また毎日 自分の実施したケアや、思いを記録に残すことで
経験できたことやまだ不安なケアなどを振り返る事ができていました。
振り返り会議ではステーションの管理者や学習指導者、支援者に進捗状況や
今後の課題などを発表し助言を頂きました。
自分の目標や課題が明確になり、次につなげることができました。

事例紹介

・事例 1（男性 ALS）



高齢の妻が1人で介護をしている。

訪問介護や訪問看護など様々なサービス毎日利用。

チームで連携し自宅での生活をサポートしている。

訪問時は妻の不安や困っている事を聞いた上でケアを実施。



吸引しても
上手く痰が引けん。
どうしたらいい？

痒いっていうけど
どの薬を塗ればいい？

吸引、気切部・胃瘻処置
モーニングケア、口腔ケア
膀胱留置カテーテル・人工呼吸器管理

次に訪問している利用者の事例の紹介をします。

筋萎縮性側索硬化症（ALS）の男性です。人工呼吸器を装着しています。

栄養の注入や吸引、おむつ交換などを高齢の妻が1人でしています。
訪問診療や訪問介護（ヘルパー）、わたしたち訪問看護や、訪問入浴など
様々なサービスを毎日利用して、チームで連携をとりながら
自宅での生活をサポートしています。

訪問時には、吸引や気切部・胃瘻部の処置、顔を清拭しおひげを剃るモー
ニングケア、口腔ケア、膀胱留置カテーテルの管理や呼吸器のチェックもして
います。

早朝や夜間は妻一人での介護になるため、妻の負担も大きいです。

訪問時には妻の不安や困っていることなどを傾聴し
助言や指導もおこなっています。

例えば吸引してもうまく痰がとれん。どうしたらいい？と質問があれば
吸引手技を確認しながら、指導したり

夜に痒いっていうけど薬がいっぱいあってわからん。どれ塗ればいい？
と質問があると、痒みのある部分を確認し適切な軟膏を選択したりしていま
す。

• 事例 2（女性 結腸憩室炎 ストーマあり）

日常生活は自立。

ストーマ管理が必要であり、週 2 回入浴介助のため訪問。

ストーマの浮腫や周囲の皮膚状態、排便状況確認。

本人の話を傾聴し、助言や指導も行っている。

入浴介助、ストーマ管理



2事例目は、結腸憩室炎で結腸を切除し人工肛門（ストーマ）を作成している利用者です。

日常生活は自立しており、天気のいい日は一人で押し車を使って散歩もしています。

訪問は週2回、ほとんど見守りですが入浴介助を行い、入浴後のストーマの観察やパウチの装着を本人と一緒にしています。

訪問日以外は利用者本人での管理となるため話を傾聴し、助言や指導もおこなっています。

毎週の入浴を楽しみにしており
看護師が来るのを窓から眺めて待っています。

電話対応や緊急訪問

定期訪問以外に電話対応や緊急訪問がある。

一人に対応できるようになるまでは先輩看護師の緊急訪問に同行。

- ・電話で対応できるか、訪問する必要があるか
- ・利用者がどんな状態であり、何が必要か電話での情報収集
- ・訪問先での対応、本人・家族への説明 等を学んだ



普段の訪問以外にも電話対応や緊急時には電話をもらって利用者の自宅を訪問する緊急対応があります。

私の場合、1年半後から半年間、先輩看護師の緊急訪問に同行し対応を見学して学びました。

2年後から一人に対応できるようになりました。 個々にあわせて対応していただけます。

電話で対応できることか、訪問する必要があるのか？や利用者がどんな状態であり、何が必要かを電話で情報収集すること、訪問先での対応や、本人家族への説明の仕方などを教えて頂きました。

◆実際に出勤した事例

女性 ALS

自己で吸引手技は獲得。
夜間に痰が引ききれず
呼吸苦があり訪問依頼



男性 大脳皮質基底核変性症

家族が食事のためベッドから車椅子
に移乗する際に転落。
手伝ってほしいと訪問依頼



- 他にも点滴の差し替えやおむつ交換、エンゼルケアにも緊急訪問し対応した。

実際に出勤した事例です。

1人暮らしの筋萎縮性側索硬化症（ALS）の女性です。

自身で吸引の手技は獲得していますが
痰が貯留した際に、自身では引ききれず呼吸苦があり連絡をくれました。
緊急で訪問し、吸引を実施しました。バイタルサインや観察項目を確認後
本人も楽になったのか落ち着きました。「いつでも来るからね」と言葉をか
けて退室しました。

また、大脳皮質基底核変性症の男性は四肢の拘縮やこわばりがあります。
食事のため家族がベッドから車椅子に移乗する際に、ベッドから転落してし
まい、家族だけでは体をもとに戻せないからきてほしいと連絡があり、緊急
訪問しました。

毛布を使ってベッドに持ち上げ、体位を整えました。
転落した際に頭や体を打ったりしていないか、本人の意識レベルやバイタル
サインの確認などをして退室しました。
他にも薬についての電話や、持続投与の点滴の閉塞、死後の処置であるエン
ゼルケアなどにも緊急訪問し対応しました。

終末期にある利用者との 最期までの関わり

- 卵巣癌末期の利用者

治療が困難となり、本人が在宅療養を強く希望され訪問開始。

ADL低下・食事量の低下、呼吸苦の増大がみられ

在宅酸素を利用（3L）→ SPO2=90%以下

常に苦悶表情がみられたが看護師が声をかけると
力をふりしぼるように笑顔を見せてくれた。



次に 終末期にある利用者との最期までの関わりです。

卵巣癌末期の利用者。

治療が困難となり本人が在宅療養を強く希望され訪問が開始しました。

段々とADLの低下や食事量の低下、呼吸苦の増大がみられ在宅酸素を（3L）
開始しましたが、SPO2 90%以下でした。

常に苦悶表情がみられていましたが、看護師が声をかけると力を振り絞るよ
うに口角をあげて笑顔を見せてくれていました。我慢強い方でした。

家族は…

利用者の状態や病気に対する受け入れが容易ではなかったため、毎日状態の説明を行い、家族の思いを聞きながらスタッフと共有し、じっくり関わった。



調子が良い時は家族旅行の思い出を家族と思い出しながら楽しそうに話して下さった。

何ができるの
だろうか…



最期は家族と一緒にエンゼルケアを実施。

「自宅で過ごせてよかった」「看護師さんが来てくれて喜んでいた」と言って下さった。

しかし、家族は利用者の状態や病気に対する受け入れが容易ではなく、「治る点滴はないか」「食事が摂れないから胃瘻をつくるのはどうか」などの発言もみられていました。

私に何ができるのだろうか…と悩む日々でしたが訪問した際は、状態の説明を行い、家族の思いを聴きながらスタッフと共有し、じっくりと関わりました。

訪問時は家族と一緒に沢山の声掛けを行い、体調がよいときには家族旅行の思い出やそこで食べた物などを家族と思い出しながら楽しそうに話して下さいました。

最期、息をひきとられた日は、ちょうど自分の夜間の電話当番の日でした。ご家族から連絡を頂いて、訪問しました。ご家族と一緒にエンゼルケアを実施し、ご家族とも思い出話をたくさんしました。

「自宅ですごせてよかった」「家族が暗いなか、楽しい話をたくさんしてくれてうれしそうだった」「喜んでいた」と言って下さりました。

家族と作る最期の時間…

看護師の関わりや言葉がけで良い時間にも忘れられない時間にも出来ると感じました。
家族から頂いた言葉が嬉しくて私の中でも忘れられない時間となりました。

困ったこと

- ①慣れない名刺交換や電話対応
- ②臨床の場で使用する医療用語
- ③在宅用の医療機器の取り扱い方法



- ①接遇研修の受講、先輩看護師の電話対応を一緒に聞いた。
- ②申し送りや医師からの指示など、わからない単語はメモに取り後から聞くようにした。
- ③訪問先で実際に何度も触れ、アラーム対応や家族への説明等を学んだ。

訪問で様々な経験をするなかで、これまで困ったこともたくさんありました。

初めて訪問する利用者さんや、連携するサービスの担当者の方に名刺を渡す事があり、渡し方や頂き方などわからないことばかりでした。
また利用者さんの状態を主治医やケアマネージャーに報告したり事業所にかかってくる電話の対応にも困りました。
名刺の交換は接遇の研修を受講したり、何度も動画を視聴したりして学び、電話対応については先輩看護師の電話対応を側で聞いたり、積極的に事業所内の電話を受けたりして練習しました。

また申し送りや主治医からの指示受け、カンファレンスでは臨床の場で使う医療用語が飛び交っていました。病院で働いた経験のない私にとっては何を言ってるのかわからないことも多く、わからない単語はメモに取り、あとから他の看護師に聞くようにして理解してきました。

ほかには在宅で使用する医療機器の取り扱いにも困りました。
見たことのない機器もあり、同行訪問で先輩看護師と共に何度も実際に触れることで、アラームが鳴った際の対応や家族への説明方法などを学んできました。不安な事や困ったこともありましたがひとつひとつ解決しながら進んできました。

訪問看護師になって良かったこと



- 利用者の環境や生活背景などから利用者のことが理解できる。
- 1人1人とじっくり向き合う看護ができる。
- 訪問の間はその利用者だけに時間を使える。
- 様々な疾患の利用者と関わることができ、学びが多い。

私が 訪問看護師になってよかったと思うことは

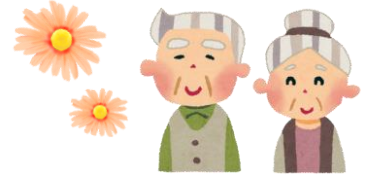
利用者さんの自宅を訪問することで、その人の生活環境や生活背景なども理解したうえで関わるができることです。利用者さん一人一人、これまでの生活や在宅療養に対する想いが異なっており、一人一人の想いを大切にしたいうえでじっくり向き合う看護ができることです。

訪問の間は1人の利用者さんだけに時間を使えるのも良いところだとも思います。これもじっくり向き合う看護ができることにつながります。

また様々な疾患の利用者さんがいるため、知識の幅が広がることもいいところだと思っています。

様々な処置やケア方法を利用者さんから教わることも多く、毎日多くの学びがあります。

やりがい



- 利用者さんと良い関係が構築でき、親しい存在として様々な相談をしてくれる。
- 「安心した、ありがとう」「これからもうちに来てね」とありがたいお言葉。
- 「家で過ごせるのが1番うれしい」と利用者自身が嬉しそうな瞬間。

私が思うやりがいは

継続して訪問していると利用者さんやご家族とよい関係が構築でき、看護の視点での質問はもちろんです、親しい存在として様々な事を相談してくれたり話して下さいます。

訪問当初はぎこちなかった会話も、今では家族のお話や、最近あった出来事、様々なことを利用者さんと共有できています。

また「来てくれてありがとう」「安心した」「これからもうちに来てね」というありがたいお言葉を頂くときです。

新卒の自分が必要とされるのか不安でしたが、こういう言葉を頂くことで嬉しくなり、これからも頑張ろうと思えます。

あとは「家で過ごせるのが一番うれしい」「帰って来てよかった」という利用者さんの嬉しそうな顔を見る時です。私たちは自宅で過ごしたいという利用者さん本人の意思を大切にして医療的ケアだけでなく、自宅での日常生活を様々な視点からサポートしています。利用者さん自身の嬉しそうな瞬間を見ると、私もよかったと思えています。

最後に

はじめは不安ばかり。利用者さんや家族とじっくり向き合える
看護ができることが嬉しく、毎日が充実しています。

新卒訪問看護師として一緒に働ける仲間が
増えることを願っています。



始めは不安ばかりでしたが
利用者さんや家族とじっくり向き合える看護ができることが嬉しく毎日充実
しています。

新卒訪問看護師として
一緒に働ける仲間が増えることを願っています。

ご清覧いただき、ありがとうございました。